

北広島市立西の里小学校陽香分校
北広島市立西の里中学校陽香分校



学校だより 第4号
令和6年7月26日

＜陽香分校教育目標＞
社会に適応し、自立できる人間をめざし、生命・人間尊重の精神を培い、健康で人間性豊かな生徒の育成に努める。

学びが世界を広げる

西の里小学校陽香分校
校長 岩崎 愛彦

■□■ 「むごい教育」の時間にしないために ■□■

武家政権の中で最も安定した時代を確立したのが「徳川家康」。彼は幼名を「竹千代」といいました。駿河国（今の静岡県）の大大名「今川義元」の人質となったのが6歳の時でした。竹千代はとても優れた子供で、義元は一目見て「この子がこのまま大人になったら大変だ。今川家にとって脅威になるに違いない。」と思ったそうです。そこで、義元は家来に、「竹千代には『むごい教育』をせよ。」と命じました。「むごい」とは、「残酷でかわいそうな」という意味です。では「残酷な教育」とはどのようなものなのでしょう。具体的には次のようなものでした。



教育出版株式会社の許諾を得て掲載しています。

- 朝から晩まで贅沢なご馳走を好きなだけ与えよ。
 - 「寝たい」と言ったら、いつでもいくらでも寝かせてやれ。
 - 夏は暑くなくようにしてやり、冬は寒くなくようにしてやれ。
 - 「学問が嫌だ」と言うなら、無理してやらせなくてもよい。
 - 「遊びたい」と言えば、好きな物を好きなだけ与え、好きなだけ遊んでやれ。
- とにかく、何事も言いなりになって、好きなことを好きなだけさせてやればよい。

さて、どうしてこれが「むごい」のでしょうか。本人がやりたいということはどんどんさせてやるべきではないのでしょうか。その子の興味・関心を大切にすることはその子の個性を伸ばすために必要なことではないのでしょうか。

義元は別の面から考えていました。人は、楽で好きなことばかりさせると、どんなよい子でも「ダメ人間」になってしまうというのです。我慢した経験がなければ我慢することができなくなるのです。結果、自分を守るために何でも他人のせいにするようになり、わがままも言うようになってしまいます。そもそも生活がだらしなくなっていく……。そのことを義元はよくわかっていたというのです。

しかし、それを上回っていたのが竹千代、徳川家康です。竹千代もこの義元の命令をラッキーとは思わず、ちゃんとわかっていたのです。どんなに家来からおいしそうな食事を出されても、あえて粗末な食事を選びました。自ら早寝早起きをし、学問や武芸にも熱心に取り組みました。遊ばないわけではなく、全力で遊びます。それでも、どんな甘い言葉にも惑わされることなく、自分を律してはじめある生活をするよう徹底していたのだそうです。そういう人間だからこそ、日本全国を統一し、戦のない平和な国をつくったのかもしれない。

さあ、明日から夏休みです。学校ではなかなかできない貴重な体験を多く経験してほしいところです。それぞれに具体的な目標を決め、しっかり達成を実感できるように「自分から」努力していかねばなりません。自分に対して「むごい」生活を求めるのではなく、「価値ある時間」になるよう、毎日を大切に過ごしてほしいです。夏休み明けに、ひと回り頼もしくなった子供たちの顔を見るのが今から楽しみにしています。

合い言葉：3つの「あ」⇒ あいさつ・あんせん・あとしまつ

旅行的行事

7月4日(木)～5日(金)にかけて中学2年生が宿泊学習として小樽方面に。7月11日(木)～12日(金)にかけては中学3年生が修学旅行として同じく小樽方面へ行ってきました。両学年とも小樽の街並みを散策し、2年生ではとんぼ玉制作体験、3年生では染物体験や浮玉制作体験など貴重な体験を真剣な眼差しで行ってきました。今回の旅行的行事で身に付けたことを今後の学校生活の中で生かしていくことを期待しています。



中学1年生 校外学習

7月5日(金)に中学校1年生の校外学習を実施しました。乗り慣れない公共交通機関を乗り継ぎながら、札幌オリンピックミュージアムと札幌青少年科学館を見学しました。



アイヌ文化の歴史・民族について学ぶ

7月19日(金)アイヌ文化の歴史や民族について学びました。講師の方々をお招きして、最初はムックリを演奏したり、踊りを披露していただきました。最後は全校児童生徒と教職員で踊り、とても有意義な時間となりました。児童・生徒たちの感想では『アイヌの人たちは人間にできない物を神様とし、大切にするという文化は今の時代SDGsに必要な考えだと思いました。』と、視野を広げた生徒がいたのが印象的でした。

<8月> 主な予定	26日(月)	夏季講習
	27日(火)	2学期始業式 避難訓練
	28日(水)	(中)1・2年学力テスト
	30日(金)	(小)プール授業

